

流れに沿っていつの間にか社長に 働きやすい職場を追求するヘルパー社長

キャリアアップ

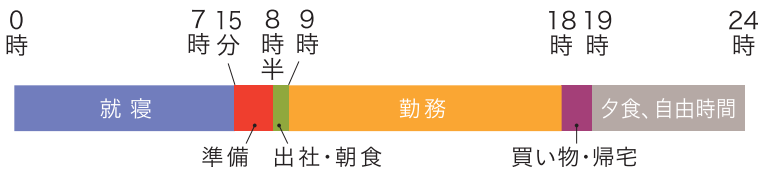
豆田美和子さん / 47歳

有限会社介護サービスいちばん
取締役社長・介護福祉士、介護福祉士実務者研修講師

キャリア

20代	本屋、テレビ局、コールセンターなど様々な仕事を経験
29歳頃	ヘルパー2級を取得、登録ヘルパーとして働き始める
31歳頃	サービス提供責任者に就任
34歳頃	管理者に就任
42歳頃	取締役社長に就任

ある日の1日



- 資格を取ってみたら、だんだん面白そうに思えてきた
- 登録ヘルパーとして働きだした事業所で、13年後社長になる
- 働きやすい職場づくりを実践

！ 福祉の仕事を始める前は何をしていた？

— 様々な仕事を経験

放射線技師の資格を取るために神戸の学校に進学しましたが資格が取れず、在学中に阪神淡路大震災で被災してしまっただけでなく、神戸から福岡に帰ってきました。

当時は、目標や自分がしたいことが見えてきませんでした。それで、家の近くの本屋さんとレンタルビデオの複合店でアルバイトを始めました。チーフまでさせてもらいましたが、ずっと続ける仕事ではないかなと感じていました。

友達の紹介で、テレビ局で働いたあと、コールセンターでオペレーターを始めました。電話会社のサポートセンターのようなところです。この頃、ホームヘルパー2級の資格を取ろうと思っていたので、学校に通いやすくて、短期間でも働ける仕事を選びました。

— きっかけは母の一言

20代後半頃、母から「なにか資格を取ってみたら？」と言われて、その時に初めてホームヘルパー2級という資格があることを知りました。夜間の学校に通って取れる資格だったので、バイトしながらでもできるし、取ってみようかな、と思いました。

その当時は、資格を取ったらすぐに働こうとは考えていなくて、いつか役に立てばいいな、と思うくらいでした。母もまさか本当に私がこの仕事に就くとは思ってなかったんじゃないですかね。でも、資格を取ってみると、面白そうだなと感じ始めたんです。ハローワークにどんな会社があるのかを探しに行くと、目に留まったのが今の会社です。

❗ 福祉の仕事をする前と後で、イメージは変わった？

— 登録ヘルパーから社長へ

29歳の時、登録ヘルパーでパートとして働き始めました。いろんな人に会って、これまで歩んでこられた人生の話を聞くのは、とても楽しかったです。祖母とは違う高齢者の方と接するというのも新鮮でした。

1年たった時に、社員にならない？と誘ってもらい、社員になりました。ヘルパー1級の資格も取らせてもらって、サービス提供責任者になりました。2～3年たった頃、前任者が退職したのを機に管理者になりました。約30名のスタッフを束ねていくことや、他の事業所とのやりとりなど、いろいろと試行錯誤しました。ちょうどその頃、介護保険の制度がどんどん変わっている時期でもあったので、時代の変化にも対応していく必要がありました。前任の管理者がしていたのと同じようにやってきたけど、しっくりこなくて、悩むこともありました。次第に、「私は私だから」と思

うようくなりました。良いものは残しつつ、新しいことも取り入れつつ、自分流で向き合っていくようになりました。

5年前に会社の代表に就任しました。実は以前にも、代表にならないか？という話を頂いたのですが、「何かあった時に会社を支えられる自信がない」とお断りしたんです。数年たって、また代表のお話が来ました。人は時代によって考え方が変わるものですね。「何かあった時には、私が自分で対応すればいいだけの話か」と、ふと思ったんです。サービス提供責任者の方たちにも相談したら、「ついていくよ」と言ってくれたその一言で決めました。

わたしはいきなり代表になったわけではなくて、登録ヘルパーから始まっています。だからこそ、昔の自分がして欲しかったことをできる限りやってあげたいんです。働きやすい職場であるために、福利厚生に力を入れています。

❗ 仕事以外はどんな生活をしている？



— 3匹の犬たちと穏やかに過ごす

週2回の休みのうち、外に出る用事は1日で終わらせて、残りの1日は何もしない日をつくっています。何もしない日は、寝ていますね(笑)あとは、3匹の犬たちと過ごしています。犬はすごく好きですね。3年前に18歳で1番最初の子が亡くなりました。その子の他に2匹いたんですが、シニア犬を引き取って看取りをしました。半年ほどで見送って、いまはダックスとチワワの3匹がいます。犬の介護は、これまで癒したり、助けてくれた恩返しだと思ってやっています。

column | スタッフのお母さんたちの手作りマスク

昨年、コロナ禍でどこに行ってもマスクが売り切れになった時期がありました。訪問するスタッフたちのマスクの確保に困っていたところ、スタッフのお母さんたちがマ

スクを作ってくれたんです。1枚目の写真でつけているマスクも、その中のひとつです。利用者さんや他のスタッフさんに配って、今でも愛用している大切なマスクです。

取材を終えて

登録ヘルパーを始めた頃は、まさか自分が代表になるなんて考えもしなかったと話される豆田さん。ご自分の経験を活かした働きやすい職場づくりを実践されていました。